

平成28年度 奨学後援会総会資料

学 校 の 概 況

平成28年5月15日

広島商船高等専門学校

目 次

学校の現況（校長 村上 定瞭）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
学生教育（教務主事 舟木 弥夫）・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1. カリキュラムの改定	
2. 授業時間の変更	
学生支援（学生主事 上杉 鉛一）・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1. 就学支援	
2. 学生会関係活動支援	
3. 交通安全指導	
4. その他の規範意識を高める支援	
学寮生活（寮務主事 成清 勝博）・・・・・・・・・・・・・・・・	4
1. 寮生数について	
2. 学習支援について	
3. 寮生の現状	
広報活動（広報主事 澤田 大吾）・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1. 平成27年度の主な取り組み	
2. 入学生の状況，情報の共有	
3. 今年度の取り組み	
進路指導—商船学科—（商船学科就職担当 小林 豪，瀧口 三千弘）・・・・・・・・	6
1. 進路の概況	
2. 近年の求人・求職傾向	
3. 進路指導	
進路指導—電子制御工学科—（電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉）・・・・・・・・	7
1. 進路の概況	
2. 進路状況	
進路指導—流通情報工学科—（流通情報工学科進路指導担当 岡村 修司）・・・・・・・・	8
1. 進路指導（学科の取り組み）	
2. 進路の概況	

学校の現況

校長 村上定瞭

保護者の皆様には、如何お過ごしでしょうか。平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

本年度も学生が活躍しました。高専体育大会では、卓球部が団体 2 位、男子シングルス 1・2 位、男子ダブルス 2 位、剣道部は団体ベスト 8 と健闘しました。漕艇部は 2 年連続で優勝しました。高等学校体育連盟の大会では、卓球、剣道、バドミントン、陸上、ソフトテニス、バスケットボールの部が地区大会を突破し、県大会に出場しました。野球部は 3 回戦まで勝ち残り、卓球部と水泳部は県大会を勝ち上がり中国地区大会にも出場しました。

国税庁の「税に関する作文」に応募し表彰され、タカハ機工（株）のポスターコンテストで美大生が参加するなか高専生で唯一入賞、地方銀行が主催する高校生イラストコンテスト（約 300 名参加）では優秀賞を受賞しイラストがポケットティッシュのラベルに採用されるなど、文化・芸術面でも健闘しました。

今日、日本の教育のあり方が問われています。知識・技術の確実な修得に重点を置いた教育から、社会課題の解決能力の育成に重点を置く教育への質的変換です。今日の社会課題には様々な因子が複雑に絡み、また、相反する因子が混在し、その解決策を見いだすことは簡単ではありません。そのため、知識・経験だけでなく、全く新たな視点・発想が必要となります。

このような課題解決能力を育成するため、高専各校ではアクティブラーニングの導入を推進しています。アクティブラーニングには、「PBL（課題解決を通して学ぶ）」、「e-ラーニング（ICT を活用して学ぶ）」、「ピアラーニング（学生が相互に教え合いながら学ぶ）」、「サービ斯拉ーニング（社会活動を通して学ぶ）」など、様々な形態の学修（授業）があります。

本校での具体的な事例として、①地域（離島）課題を組み入れた授業や実験・実習の取組、②障がい者・高齢者との交流活動、海岸・景勝地の清掃活動、地域伝統行事への参加などがあります。これらのアクティブラーニングの具体的な成果として、情報系科目で学生が取り組んだ「認知症予防システム」が介護施設等で導入されています。海技国家試験講座の成果として、同上級試験（1・2 級）の合格者数が増加しています。公務員講座も今年度から実施しており、今後の成果が期待できます。海外大学との学生・教員の交流に加え、一般科目・専門科目を問わず、英語による授業も推進しています。

以上述べましたように、本校では日本の未来社会ーグローバル化と地方創生ーに対応できる課題解決能力を有する人材育成に努めています。保護者各位には本校教育への深いご理解を頂きますとともに、本校に在籍するご子息やご息女が立派に成長できますようご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

学生教育

教務主事 舟木 弥夫

平成28年度より、学生の主体的な学習時間の確保、モデルコアカリキュラムへの対応、高専間連携の強化を目的としてカリキュラムの改定および授業時間の変更を実施いたします。

カリキュラムの改定

全国立高専の学生が到達すべき最低限の目標および、より高度な社会的要請に応えて高専教育の一層の高度化を図るための指針を提示することを意図して策定された「モデルコアカリキュラム」に対応するとともに、学生の主体的な学習時間の増加及びアクティブ・ラーニングの導入に配慮した新カリキュラムを実施します。

電子制御・流通情報工学科では学修単位に加えて資格検定による単位認定、インターンシップ・地域貢献等の特別学修単位を導入することにより、実験実習・卒業研究・主体的な学習時間の確保が十分に可能なカリキュラムとなっています。しかしながら、商船学科では養成施設としての要件から学修単位の導入自体が困難なため、主体的な学習時間の確保が十分にはできていません。今後、授業方法を工夫するなどして主体的な学習が少しでもできるよう改善を図ってまいります。

授業時間の変更

現在、中四国地区の高専13校（14キャンパス）が連携して、学生の広い視野と素養の形成、創造力と実践力の育成を図る方法を検討しています。その一環として、今年度本校ではTV会議システムを用いた授業（宇部高専と経営系、津山高専と一般教科社会・中国語）、弓削商船と情報系学科の卒業研究発表の相互配信を試行しました。もちろん課題も多くありましたが、学生・教員双方にとって大変良い刺激となりました。今後、協働授業をはじめとする高専間連携をさらに強化するため、中国地区8高専の授業時間を統一することになりました。

今年度まで、1回の授業を50分で実施していましたが、来年度からは2回分の授業を90分で実施します。

新		旧	
(授業時刻) 第6条 授業開始、終了の時刻は、次のとおりとする。		(授業時刻) 第6条 授業開始、終了の時刻は、次のとおりとする。	
校 内 時 間	時 間 帯	校 内 時 間	時 間 帯
1・2 時間	8:50 ~ 10:20	1 時 間	8:40 ~ 9:30
3・4 時間	10:30 ~ 12:00	2 時 間	9:35 ~ 10:25
5・6 時間	12:50 ~ 14:20	3 時 間	10:35 ~ 11:25
7・8 時間	14:30 ~ 16:00	4 時 間	11:30 ~ 12:20
ただし、授業科目（単位）により、7・8時間を次のとおりとすることができる。		5 時 間	13:10 ~ 14:00
7 時 間	14:30 ~ 15:20	6 時 間	14:05 ~ 14:55
8 時 間	15:30 ~ 16:20	7 時 間	15:05 ~ 15:55
		8 時 間	16:00 ~ 16:50
<定期試験>			
校 内 時 間	定期試験時間帯		
1・2 時間	8:50 ~ 9:40		
	9:50 ~ 10:40		
3・4 時間	10:50 ~ 11:40		
	11:50 ~ 12:40		

学生支援

学生主事 上杉 鉛一

1. 就学支援

本校では、入学金や授業料の免除、各種奨学金の案内や手続き等について、各教室や1階エレベータ横の掲示板に貼り出すとともに電子掲示板やHPで学生たちに案内しています。申請を検討されているご家庭は、学生を通じ、学生係で必要な書類等を受け取り、記入の上、期限内に提出するようにお願いいたします。（学生係は0846-67-3023です）

なお、1年生から3年生までの学生に関しては就学支援金制度により授業料の支援を行っており、4年生以上の学生には授業料免除制度により2015年度の前期分授業料は全額免除33名、半額免除7名、後期分授業料は全額免除33名、半額免除7名の就学支援を行っています。

2. 学生会関係活動支援

学生たちの自治組織として、学生会があります。会長をはじめとする役員を中心に学校周りの掃除などのボランティアや商船祭などの学校行事、課外活動の支援などに取り組んでいます。学生会の活動やクラスマッチなど一週間の行事、商船祭の内容などを学生会新聞としてまとめ、各クラスや校内の掲示板に隔週水曜日に掲示するようにしています。

学生会の最大の行事である商船祭には、一般の来場者も楽しめる教室でのイベントや展示を増やし、2015年度は外部からのゲストを2組招き、ステージで演奏等を披露していただき、来客者や学生たちに喜んでもらえ、盛況となりました。

学生たちの心身の健全な発達のために14の体育系のクラブ、13の文化系のクラブ、同好会が放課後を中心に活動しています。各クラブからの予算要求書を学生会がまとめ、クラブ予算を作成しています。これまでは昨年度の予算と各クラブからの要求書と部員数、活動状況などを加味して予算をたてています。

3. 交通安全指導

登校の際には、学生たちの安全を守るため、また地域からの信頼を得るために、教員が通学路に立ち交通安全指導をしています。今年度はイヤホンなどで耳をふさいで自転車に乗ることや一旦停止について注意してきました。これまで指導してきました並列運転や二人乗り、傘さし運転をしないことなどの交通規則を守り、事故に遭わないように指導しています。残念ながら自転車事故が5件発生しました。うち2件は交差点での事故ですので、一旦停止を再度重点的に指導します。

2015年度も県警白バイ隊員による、原付通学生への運転講習会を行いました。来年度も警察と連携しながら、交通安全に取り組んでいきます。

4. その他の規範意識を高める支援

本校の教育目標のAは「豊かな心、生きる力、規範意識の育成」です。具体的には「安心・安全」「思いやり」「ルールを守る」ことであると指導しています。自分を大切に、他人を大切にすることを指導しています。また「人は見た目が8割」とも言います。服装や身なりを見て、その人の中身を考える人は多いものです。本校の学生が一人でもシャツを出したり、ネクタイを緩めただらしない服装をしたり、髪を染めたり、ピアスをするなどの格好をすると、「広島商船の学生は」という風に、全学生を否定するような声を聞くことにもつながります。多くの学生はこのような服装や格好はしていませんが、一部の学生のために全員が悪く見られることがあるのが実情です。一人一人が広島商船の代表であることを自覚して行動するように、ご家庭でもご指導をお願いします。

2015年度は停学以上の指導を受けた学生が前年度に比べてほぼ半減しました。（2013年度39名、2014年度21名、2015年度9名）これも保護者のご協力を得て、全教職員が学生指導に尽力した結果だと思われます。

学寮生活

寮務主事 成清 勝博

1. 寮生数について

昨年度は、10月末の時点で再入寮不許可となる寮生が31人になることが予想されました。そこで、居室不足解消のため、A棟(すべて1人部屋)の20部屋に2段ベッドを入れて2人部屋に変更しました。トイレ、補食談話室、浴室、食堂の利用状況を考えると、20人程度が増員の上限と考えました。その結果、年度末までの自主退寮者等もあり、20部屋中15部屋を2人で使用することになり、再入寮不許可を出さずに済みました。

今年度は女子の入寮生が過去最多の16人で、来年度はさらに入寮希望者が増えることが予想されたため、A棟の6部屋を女子部屋として使うことにしました。そのため、男子寮の収容人数が6人減になりました。その結果、指導の多かった男子寮生4年生1人、3年生2人を再入寮不許可にしました。来年度の新寮生のために、男子100人、女子22人分の居室を確保しています。

来年度、女子留学生の受け入れを予定しています。イスラム教徒の女子学生が住めるように女子寮の一部を改修しています。

2. 学習支援について

(1) 2年生以下の成績不振者の図書室での自習

昨年度から実施している自習を今年度も行いました。週4日(月～木)、1時間半(8時～9時半)宿直教員の監督の下、図書室で自習させました。昨年度は参加延べ18人中、2人が留年してしまいました。今年度は、担任と連絡を密にし、延べ32人が参加し、全員進級することができました。

(2) 英会話教室(English Dojo)

毎週水曜日の20時半～21時半に希望者に対して、英会話教室を開催しました。11月11日に1回目を開催しました。1年生から3年生までの男女寮生が6人～15人参加しました。

3. 寮生の現状

(1) 規則違反

窃盗、暴力、異性寮への立入・引入に関しての違反学生はいませんでした。

飲酒(持ち込み)で1人、喫煙で3人の指導(退寮)された学生がいました。他に、部屋の使い方違反、無届外泊・点呼不参・外泊カード忘れ(女子のみ)、禁止物品の持ち込み及び使用、廊下への物出し、寮費・食費等の滞納など、無くなっただけではありませんが改善されています。

(2) 寮生指導

ここ数年低学年の問題行動が目立つようになってきました。病気以外の授業への遅刻・欠席する学生が多くなってきました。今後も、基本的な生活習慣を含めて、今まで以上にきめ細かい指導が必要になってくるものと思います。

(3) 今後の課題

次の3点については、今後十分検討していきます。

- ①公共マナー教育
- ②女子寮の整備について
- ③入寮希望者が定員を超えた場合の対策

広報活動

広報主事 澤田 大吾

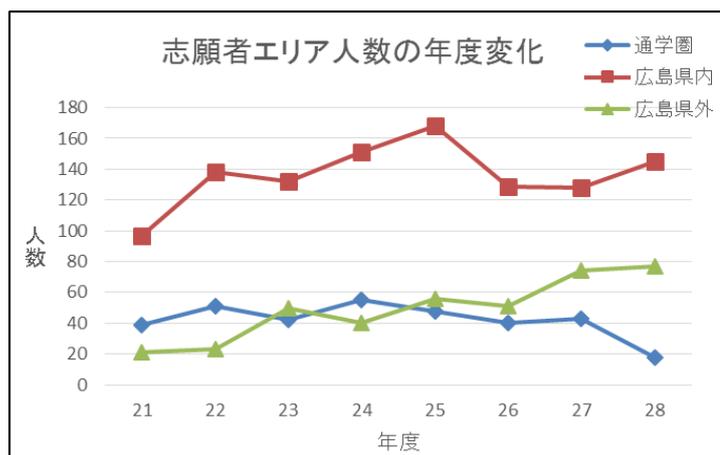
1. 平成 27 年度の主な取り組み

1 年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

- ・ 4 月 大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力
- ・ 6 月 進路説明会（福山で開催、約 20 校参加）を開催
- ・ 7 月 5 商船高専合同説明会（広島、横浜、神戸）に参加
- ・ 8 月 公開講座、全教員による中学校訪問。
オープンスクール（第 1 回目）を 2 日間実施
県内の中学校（265 校）を全教員による訪問
- ・ 9 月 県内中学校からの要望による出前授業や進路説明
6 高専による進学説明会を実施（東京）福岡 3 高専の説明会に参加
- ・ 10 月 オープンスクール（第 2 回） 帆船フェスタ 2015（広島）に参加
- ・ 11 月 帆船フェスタ 2015（福山）に参加

2. 入学生の状況、情報の共有

今年の志願者は 240 名になり、昨年から 6 名の減少となりました。しかし、特別推薦者 27 名を始め、一般入試においても優秀な生徒が確保されるのではないかと予想されます。8 月のオープンスクールは混乱を避けるため 2 日間実施しました。1 回の実施としては最高数に近い来校者がありましたが、志願者激増には至りませんでした。しかし、志願者のレベルがかなり上昇したことはつながりました。平成 28 年度は夏のオープンスクールは 2 日間、10 月は 1 日間とする予定です。



最近の傾向としましては、商船学科の志願者増は全国 5 商船とも上がっていますが、非商船系は不安定な志願倍率になっています。これら非商船系の学科は独自の特徴を生かしレベルアップを目標にしていきます。

しかし、本当の広報とは「本校の学生がいかに成長するのか」であると考えられます。学校全体が学生を支援できる体制が必要です。また、今年の広報活動では学生主体の広報活動を全面に打ち出して行く予定です。2 度のオープンスクールでは本校の学生を生徒や保護者に見ていただき、それで志願者増になるような学校にしていくことを考えています。

3. 今年度の取り組み

- (1) 中学校（中学校教諭）との連携強化
- (2) 教育コーディネーターの配置
- (3) 中学校の教育研修会への本校教員の参加
- (4) 県外での PR 活動強化

進路指導 一商船学科一

商船学科 就職担当 小林 豪、瀧口 三千弘

1. 進路の概況

図1に商船学科の過去5年間（平成23年度～平成27年度）の進路状況を示します。全体の傾向として、航海コース・機関コースともに平均すると約6割が海上職、2割が陸上職、残り2割が進学といった状況です。ただし、平成27年度は航海コース74%、機関コース90%が海上職を選択し、学生の海志向が強くなっているように思えます。これは、海運界の人材不足、とりわけ内航船員の不足がその一因と考えられます。

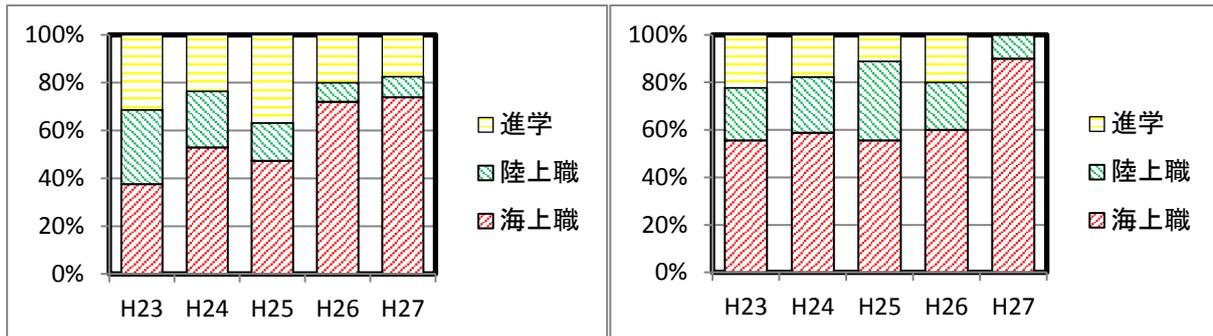


図1 過去5年間の進路状況(左:航海コース・右:機関コース)

2. 近年の求人・求職傾向

近年の求人は、外航船社ではもちろんですが内航船社においても2級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため、よりレベルの高い資質が求められています。

海上職・陸上職ともに、就職に際しては基礎基本の知識を有していることは当然のことながら、社会人としての責任感・協調性・社会性などのコミュニケーション能力が強く求められる傾向にあります。

海上職を目指す学生の場合、外航を志望する学生は各年度一定数おりますが、全体的には内航のような数ヶ月から数週間の短期航海の船員を希望する傾向が見られます。

こうした求人・求職状況に対応するため、商船学科ではカリキュラムの再編や補習・個別指導・国家試験受験の支援等を行い、学生の資質向上に努めております。図2に卒業時の上級海技免状の取得者状況を示します。

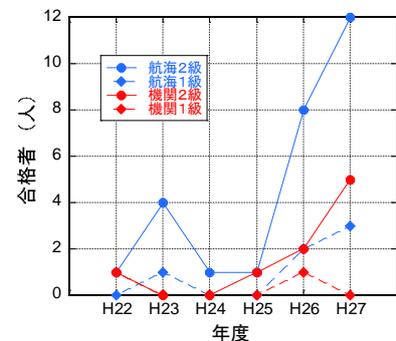


図2 海技免状の卒業時取得状況

3. 進路指導

(1) 低学年に対して：学科長や就職担当がホームルームの時間を利用して就職や進学を含めた進路についての指導（主として動機付け）を行っています。不定期ではありますが、造船所見学や本校練習船の寄港地での会社見学・港湾設備見学等も行い、船及び海事関連の仕事に対する理解を深める取組みも行っています。とりわけ、3年生に対しては上級海技免状の取得に向けた取り組みをできるだけ早く始めるように促しています。

(2) 高学年に対して：商船学科では担任と就職担当を中心に、本人の希望・適性・成績等を踏まえ、希望調査・個人面談等を行いながら進路を決定しています。昨年度より、4年生の後期に航海訓練所での練習船実習が始まりました。このことにより、学生は帰校後すぐに進路の選択を行わなければならなくなりました。学科としましては、会社説明会・大学説明会を4月以降頻繁に行う等、情報提供にも努めておりますので、ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

進路指導－電子制御工学科－

電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉

1. 進路の概況

日本の経済回復を目的としたアベノミクスによるデフレ脱却からの経済金融政策の効果が、企業の採用人数の顕著な増加につながり、今年度の求人状況は、求人企業数は326社、述べ求人数は431人と非常に恵まれた状況でした。今年度も学生達の努力の結果、卒業生42名のうち9名が進学し、33名が就職します。就職先の職種としては、エンジニアとして機械、電気、情報、制御等の専門的な技術の仕事に携わります。

2. 進路状況

(1) 就職

卒業生の就職先の業種は48%が製造業で、その職種は工場の生産ラインの設計や保守・管理などとなりました。また、約45%がサービス業で、エレベータやエスカレータ、OA機器などのメンテナンスを行います。運輸・通信分野も約3%で、通信部門では携帯電話やネットワーク関連の仕事を行います。今年度は、33%の卒業生が県内の企業に就職し、中四国地区の企業に就職する学生を含めると52%の学生が、中四国地区で活躍します。昨年度までの過去5年間の平均値の33%に比べ、大幅に増加しました。表に卒業生の進路先を示しています。

(2) 進学

大学等への進学者の割合は16%で、進学先としては、豊橋・長岡の両技術科学大学と宇都宮大学です。本校の専攻科へ進学する学生もいます。

平成27年度卒業生の進路先(電子制御工学科)(H28.3.5現在)

	内定進路先	人数	内定進路先	人数
就職先	JFEスチール西日本製鉄所	1	東邦亜鉛契島製錬所	1
	アトム	1	協和エクシオ	1
	サポートサービス	1	古川製作所	2
	セイコーエプソン	1	五栄土木	1
	セトウチ	1	今治造船	1
	ダイキンHVACソリューション中四国	1	三菱電機ビルテクノサービス	1
	ディスコ	1	全農サイロ	1
	ヒロタニ	1	東芝メディカルシステムズ	1
	ヒロテック	1	東芝自動機器システムサービス	1
	フジテック	1	東和薬品	1
	ボルテック	1	日信電子サービス	1
	マツダE&T	1	日本オーチス・エレベータ	2
	メタウォーター	1	日立アプライアンス	1
	ユニチカ	1	日立ビルシステム	1
	旭化成	1		
進学先	豊橋技術科学大学	2	広島商船高等専門学校専攻科	2
	長岡技術科学大学	3	広島国際大学	1
	広島会計学院専門学校	1		

進路指導—流通情報工学科—

流通情報工学科 進路指導担当 岡村 修司

1. 進路指導（学科の取り組み）

従来の5年学級担任に加えて1名の進路指導担当者を置き、学科内で連携を取りながら指導にあたっています。採用試験で特筆すべき点は、基礎学力や一般常識もさることながら、個人の性格(ストレス耐性やバイタリティ)を従来にも増して注視している点です。そのため、企業と学生とのミスマッチが起こらないよう個別対応に相当の時間を割いています。

また、教授を中心として企業を担当し、通年にわたり企業訪問などの情報交換を行い、連絡を密にすることにより、信頼関係の構築に努めています。

特に、平成25年度の学生よりコース制（流通・ビジネスコース、情報コース）を導入しているため、それぞれのコースの専門性に応じた企業との連携に努めています。また、学生及び保護者の地元企業への就職ニーズが高いこと、学生を地元に戻す（地域貢献）ことの2つの観点から地元企業との交流も深めています。

地元志向及び業種の多様性から、他学科に比べて一般応募を選択する学生もいます。このため、就業意識を高める試みとして、1) 低学年時より就職講義の導入、2) 4年生全員インターンシップに参加、3) OB・OG講演会、4) 職業適性試験・基礎能力試験の実施などの多岐に渡る就職支援プログラムを実施しています。

2. 進路の概況

平成27年度の卒業生は、35名（男子25名、女子10名）です。この内、就職希望者は27名、進学希望者は8名となっています。

就職先企業の業種の内訳については、図1に示すように、情報通信業が過半数を占め、運輸業、卸売業・小売業が続いています。その他の業種にはサービス業、医療・福祉などがあります。企業の所在地については、図2に示すように、広島県内への就職が増えています。その他の地域には、愛知県、神奈川県、千葉県などがあります。表1に主な就職先企業名を示します。

進学者の内訳は豊橋技術科学大学環境生命工学課程、広島商船専攻科産業システム工学専攻、東京情報大学総合情報学部総合情報学科、専門学校などです。

表1 就職先企業

情報系	物流系	その他
富士通株式会社	澁澤倉庫株式会社	大崎上島町役場
株式会社富士通エフサス	山九株式会社	株式会社八天堂
富士通エフサスシステムズ株式会社	トナミ運輸中国株式会社	明治安田生命保険相互会社
株式会社富士通マーケティング	株式会社ティーユーロジネット	株式会社Bakky
株式会社NTTフィールドテクノ	シモハナ物流株式会社	
株式会社広島情報シンフォニー	株式会社安川ロジスティック	
株式会社日本テクシード		
京セラコミュニケーション株式会社		
KDDIエンジニアリング株式会社		
CTCテクノロジー株式会社		
富士電機株式会社		

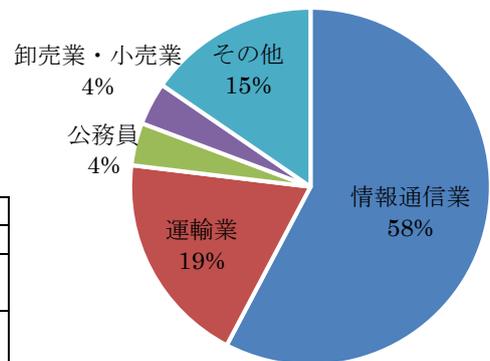


図1 就職先業種

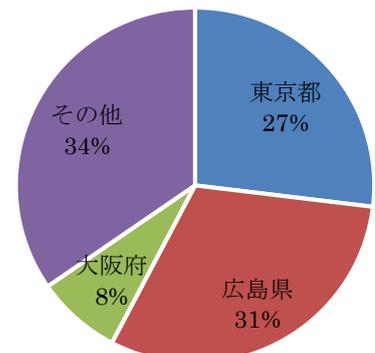


図2 就職先地域